



学校法人武蔵野大学 第一次長期計画

[2020 年度～2029 年度]

＜2025 年 4 月改訂版＞

学校法人武蔵野大学 第一次長期計画（2020 年 4 月～2030 年 3 月） 〈2025 年 4 月改訂版〉

グローバル化が進み、社会・経済・科学技術が国境を越えた変容を見せるとともに、ボーダレスに情報をやり取りするための情報通信技術は、新型ウイルスの世界的流行による緊急性も背景に劇的な進歩を続けている。A I、ビッグデータ、I o T の登場は第 4 次産業革命とも言われ、利便性の向上や産業の発展に大きな影響を与える一方、社会における格差の拡大や環境破壊といった社会の持続性への危惧が叫ばれている。こうした状況に対し、2015 年に国連が採択した持続可能な開発のための目標（S D G s）をはじめ、様々な立場からあるべき社会の実現に向けての議論と努力が続けられている。

我が国の教育においては、少子高齢化、地方創生の必要性や科学技術の発達などを背景に、2050 年に必要となるであろう能力を予見し、今後の社会を担う人材の養成に取り組むことが喫緊の課題となっている。

上記のような状況に鑑み、本法人においても、世界的規模で激しく変化する社会情勢に対応し、予測不可能な時代の到来に向けどのような教育研究と人材養成を目指すべきかを深く検討し、計画的推進を実現するため、学校法人武蔵野大学第一次長期計画をここに策定する。

I. 建学の精神の堅持及び未来への継承

仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育。

四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）

生きとし生けるものが 幸せになるために
むさぼり・いかり・おろかさに 流されず
この世界 あるがままの真実に 学び
人格向上の道を とともに 歩みたい

学校法人武蔵野大学の建学の精神は、仏教の根本精神である四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）を基礎とする人格教育である。学祖高楠順次郎博士は「理想が高まるに従って人格が高まり、人格が高まるに従って高い理想が現出する」と述べ、仏教の開祖である釈尊を理想の人格として仰ぎ、私たちもその理想に向かって、人格向上の歩みを進めることこそ人生の意義であると説いている。このように、学校法人武蔵野大学の教育の目標は四弘誓願を基礎として人格向上を図ることである。

今後とも仏法の真理観に基づく建学の精神を具現化する取り組みを本法人の教育研究活

動の根幹に据えつつ、仏教思想のもつ現代的な意義と可能性を世界に向けて発信していくことが重要である。2024 年に創立 100 周年を迎えるにあたり、改めて学祖高楠順次郎博士の仏教研究や教育事業の初心に学びつつ、武蔵野大学仏教文化研究所が世界的な仏教研究のセンターとなるようそのあり方及び研究活動の抜本的充実をはかることとする。

Ⅱ. ブランドステートメント（宣言）

「世界の幸せをカタチにする。」

生きとし生けるものが 幸せになるために

むさぼり・いかり・おろかさに 流されず

この世界 あるがままの真実に 学び

人格向上の道を とともに 歩みたい

仏教の根本精神である「四弘誓願」の理念、すなわち、自己と他者は密接につながりあっているという前提のもとに、自らの幸せだけでなく他者の幸せをも真摯に希求するところに、目指すべき理想の世界がうち立てられていくという理念を具現化するため、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を宣言する。

学校法人武蔵野大学は、2024 年の創立 100 周年を跳躍台として、今後 10 年 50 年の社会の姿を見越しながら、本法人に課せられた使命を果たしていく決意であり、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」はその決意の表明である。

Ⅲ. ブランドビジョン

1. ハピネス・クリエイター（Happiness Creator）が集う空間へ

私たちは、世界に生きている。今いる場所も、遠く離れた地域や国も、地球や宇宙も世界である。そこで起きていることは、たとえどんな些細なことであっても相互に影響し合い、過去と未来に繋がっている。そうしたあらゆる境を越える広い視野をもって、世界の喜びと痛みを感じ、あらためて世界の幸せとは何かを問い、その解を導き出していくことが必要とされる世界に私たちは生きている。

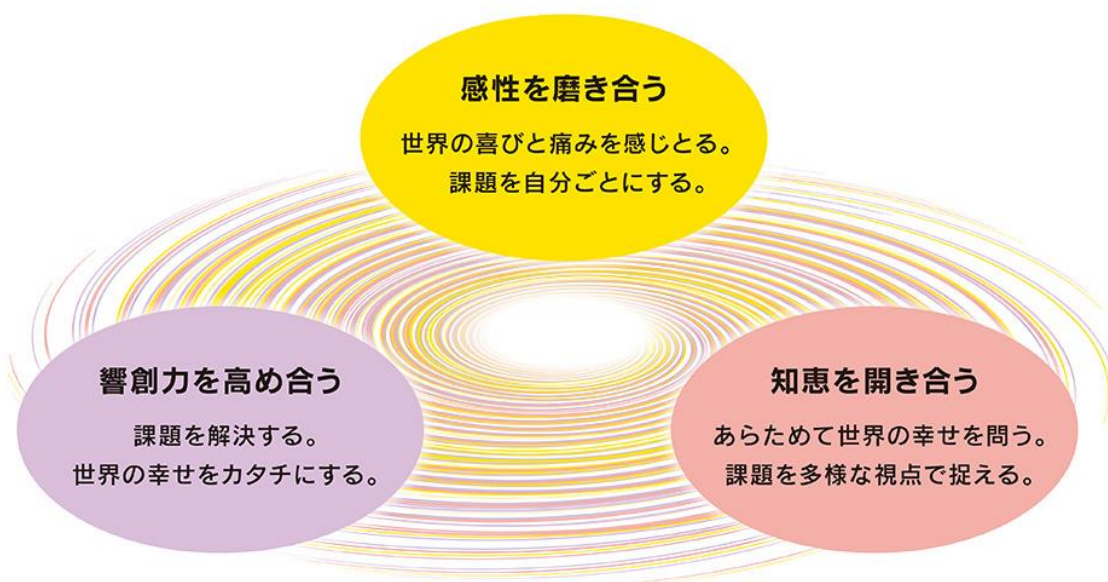
ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」に謳う「幸せ」とは、生きとし生けるものの痛みや苦しみからの解放を通じて実現されるものである。人間だけでなく、この地球に宿るすべての存在、目に見えるものも見えないものも含めたすべてのものの痛みや苦しみを感受し、問いかけ、その解放を願い実践するところに「世界の幸せ」が創られていく。

学校法人武蔵野大学は、世界の幸せを願う心を第一義に据えつつ、世界を見渡す幅広い教養、視野、経験、感性をベースに、各設置校の知見を活かして、世界の痛みや苦しみを世界の幸せへと響創していくことを目指す。「世界の幸せをカタチにする。」を自らの願いとする、感性・知恵・響創力にすぐれた人格を育成し、ハピネス・クリエイター（Happiness

Creator)として社会に送り出していくことが本法人の教育的使命である。

2. 3つの行動指針「響き合い、高め合うスパイラル」

学校法人武蔵野大学は、今後 10 年 50 年の社会の姿を見越しながら、「世界の幸せをカタチにする。」という理想を掲げ、教育研究を改革し、世界から求められる法人になる。この崇高な目標に向かって接近していくための行動の指針として、3つの行動指針「響き合い、高め合うスパイラル」（①感性を磨き合う、②知恵を開き合う、③響創力を高め合う）を掲げる。この行動指針は、学生、生徒、園児、教職員及び同窓生をはじめとして、本法人に関わりのあるすべての人々が、あらゆる場面でどのように意思決定し、行動すべきかを示す指針である。一つひとつを向上し、それが繋がるスパイラルを拡大させることが、「世界の幸せをカタチにする。」の実現に私たちを導いていく。



① 感性を磨き合う co-feel

感性を研ぎ澄ませ、世界で起きていることを能動的に感じとる。想像力を最大限に発揮し、自他の境を超えていく。このように、課題を自分ごとにする「感性」が世界から求められている。私たちは、「感性」を磨き合う教育研究を実践する。

② 知恵を開き合う co-awaken

世界の幸せとは何か、課題の理解と解決とは何をなすべきかを問う。不断の探究心をもって、固定観念を超えていく。このように、課題を多様な視点で捉える「知恵」が世界から求められている。私たちは、「知恵」を開き合う教育研究を実践する。

③ 響創力を高め合う co-create

人々と連帯して課題を解決する。誠実さと行動力をもって、価値観や言語の境を超えていく。このように、異なる力を響き合わせて課題を解決する「響創力」を高め合う教

育研究を実践する。

（響創力：価値観や言語の異なる人々と響き合い、連帯して創造する力を表している。

「響」は、仏教の縁起観をもとにしたことばである。）

世界の幸せをカタチにする。

私たちは感じ、問い、創りつづけます。一人ひとりの幸せを、世界の幸せを。

そのために、感性を磨き、知恵を開き、響創力を高め合います。

IV. 学校法人武蔵野大学グランドデザイン（目指す姿）

本法人は令和6（2024）年に創立100周年を迎える。現代社会はAIの進化やDXなどの技術革新、グローバル化、地球温暖化、武力紛争など様々な変化や課題が地球規模で渦巻いており、将来を予測することが困難な時代となっている。国内の私立学校の環境は、驚異的な人口減少により統廃合が加速度的に進むことが予想されており、本法人は危機感を持ち、建学の精神を基盤として、学生、生徒及び園児（以下「学生・生徒等」という。）の今後10年50年の社会の姿を見越しながら、適切かつ必要な教育研究を積極果敢に展開し続けなければならない。

本グランドデザインは、未来社会をも見据え、「本法人が目標とする大学・中学校高等学校等のあるべき姿の基本的な方向性」を示すものであり、これに基づき、現行の第一次長期計画の補正、第二期中期計画及び各年度の事業計画を策定し、学生・生徒等、教職員及び関係者の理解と協力のもと、法人経営の『持続可能性を確実にすることを目的』とする。

1. 建学の精神の堅持及び未来への継承

建学の精神は、仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とし、釈尊を理想の人格と仰ぐ人格向上教育である。特に大学は、ブランドステートメントを「世界の幸せをカタチにする。」とし、「生きとし生けるものが 幸せになるために、むさぼり・いかり・おろかさに 流されず、この世界 あるがままの真実に 学び、人格向上の道を ともどもに 歩みたい」と宣言している。

第一次長期計画で明示しているように、本法人は、今後とも建学の精神を具現化する取り組みを教育研究活動の根幹に据えつつ、仏教思想のもつ現代的な意義と可能性を世界に発信することを目指していく。

具体的には、仏法の真理観を体現されている優れた先達を国の内外から発掘・任用し、その指導を仰ぎ、学内における「建学の精神の見える化」を図るとともに、仏法を体感できる空間をキャンパス内に新設し、儀式や講演・聴聞だけではなく仏教精神を体験できる機能を併設する。加えて、国際連合憲章さえ空文化が懸念される現下の閉塞した国際情勢を改善す

べく、真の平和と共存をはじめ現代世界の諸課題の解決に向けた仏法に基づく貢献の可能性の論究等を目的とする高度な学際的研究機関を創設する。これによって、「力の文明」から学祖高楠順次郎博士の願う仏法による「人類の救済」に向けた研究・提言・行動の推進を目指す。

2. 豊かで生き生きとした学びの実現（教育方法）

学生・生徒等及び教職員は学校教育の主役である。学生・生徒等にとって学校教育での様々な出会い（縁）がその後の人生において大きな財産となることを教職員は強く認識し、学生・生徒等及び教職員がこの「とき」を大切に、互いに尊重して、豊かに生き生きと学び合うことが肝要である。学生・生徒等及び教職員のメインステージである授業においては、学生・生徒等がワクワクし、知的好奇心が刺激され、学びの楽しさを大いに感じることできるよう、互いに工夫・改善し続けることが重要である。社会と繋がり自身の学びの意義を感じる学外学修や、未来社会に必須となる AI・DX 等の授業はワクワクする授業の一つとなっており、更なる授業改善及び授業開発により学生の関心を引き付ける授業を多様に提供する。学生・生徒等及び教職員が互いに受け身ではなく、能動的かつ対話的な学びを実践し、学修者本位の教育を積極的に推進していく。

特に大学においては、新たな学びのカタチである「響学スパイラル（問い、考動し、カタチにして、見つめ直す）」を通じて成長を促し、学修者本位の教育を更に展開し、自己実現及び社会貢献できる人材を多様に輩出する。

3. 世界のウェルビーイングの向上を目指す（設置校の特色）

建学の精神に基づき、設置校の特色ある教育研究を展開することで、ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する。世界規模の多様な難題に向き合いながら全ての人が豊かさを感じる社会を実現するには、物質的かつ量的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康までも含めて幸福や生きがいをつめる「ウェルビーイング」の考え方が重視されつつある。このような時代の変化を捉え、仏法の真理観を根幹として、根源的な苦悩からの解放を見据えつつ、科学や技術の知見・成果も取り入れた学際的なアプローチによって、幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和など、人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材を育成、輩出する。

特に大学においては、この方向性を踏まえつつ、学部では、「社会において実効ある職業人養成」と「全人格的教養教育」に比重を置いた教育を行い、大学院では、「高度専門職業人」と「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材」の養成に重点を置くこ

とを基本にする。ディプロマ・カリキュラム・アドミッションに関する3つの方針において養成する人材像を明確に定め、学修者本位の魅力的なカリキュラムと効果的な教学マネジメントを展開する。資格や技能の取得を目的とする大学院・学部においては、高い専門的能力と確かな職業実践力を身につけさせる。これらの人材育成を通じて、世界のウェルビーイングの向上に貢献する。

4. 新たな市場及び価値の創出

(グローバル教育等の開発・展開、組織の再編・統廃合)

(1) グローバル展開

「生きとし生けるものが幸せになるために」を実現するため、「世界中の老若男女が学びたいと強く思う、高度で開かれた教育」を開発し続ける。人口増加が見込まれているアジア、特に建学の精神の根本にある仏法を共有できる国々を対象に、現地での教育事業、サイバーキャンパス等を用いた通信教育、留学生の受入れ、海外企業・大学等との共同研究・受託研究等を推進し、各国・地域・現地のニーズにあった教育研究を展開する。

また、広く国内・海外に目を向け、自国の文化・歴史等を十分理解したうえで、世界で活躍できる能力を備えた人材を育成、輩出する。

(2) 社会のニーズの変化に合わせた展開

社会の多様化と変化を迅速に捉え、特に大学においては、社会のニーズがある分野においてリカレント教育を積極的に推進し、サイバーキャンパスを活用して、学位取得にこだわることのない教育プログラムを含め社会人が学びやすい教育機会を提供することにより、新たなマーケットを創出する。

さらに、これらの新規展開とともに、社会のニーズを迅速に捉えた、各設置校や組織(学部・研究科・コース等)の再編・統廃合を積極果敢に実施し、人格教育を基盤としつつ、時代に合った教育研究を提供し続ける。

5. 大学をコアとした持続可能性を確実にする法人運営(ガバナンス)

益々厳しくなる経営環境のなかで、今後10年50年を展望しながら「法人の持続可能性を確実にする」ためには、「改革とチャレンジにより成長する大学になる」を本法人経営の基本的な考え方とする。教職員を含む全ての関係者が、それぞれの立場においてこの基本的な考え方を合言葉に目的意識を共有し、その実現に高いモチベーションと効果的な協働体制をもって事業の遂行に邁進する。世界の変化や動向に感度を高くし、地域社会やあらゆる

関係者の声に耳を傾け、学生・生徒等の目線に立ち、学内外の現況把握と課題の点検、必要にして適正な改善・改革を遂行し、既成の概念に捉われないチャレンジを継続的に展開する。

建学の精神に基づく持続可能な法人運営の基盤として、健全なガバナンス体制の構築と維持、本法人が定める財政基本理念に基づく安定的な財政基盤の確立、計画的な施設整備、DXの推進、建学の精神を理解した有為な役員及び教職員の確保・育成、戦略的な広報展開及び透明性のある情報公開等を通じ、教育研究活動等を魅力的に展開し、社会貢献を図りながら、持続可能な法人経営を確実にする。

特に大学においては、総合大学として現在の規模をベースに、社会の新たなニーズを先取りした学部等の新設を既存の学部等の再編・統廃合と併せて検討し、持続可能な法人経営を確実にできる適正規模を常に睨みながら、教育研究の更なる質の向上を目指す。中長期計画及び各年度の事業計画（収支状況を含む）を検証・評価し、改善を図りながら、競争力の高い質の高い教育研究を展開し続ける。

中学校高等学校においては、建学の精神に基づいた人格向上教育を推進し、大学との高大接続の目的等を明確にして改革・チャレンジを遂行する。

また、学生生徒等納付金及び補助金以外の新たな収入源の確保及び多様化は、本法人の重要事案であり、その中でも資産（特に土地・建物等）の有効活用は極めて重要である。持続可能な法人運営に向け、資産の最大活用を検討する。

V. 各設置校及び法人の第一次長期計画（2020年4月～2030年3月）

1. 武蔵野大学・大学院

建学の精神を根本とした特色ある教育研究を展開することで、ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する。第一次長期計画推進事項では、「人々と世界のウェルビーイングをデザインし、創造していく人材」の輩出（DP）をチャレンジAに掲げ、チャレンジBではそれを実現するための教育内容の展開（CP）を、チャレンジCではそのための安定的な学生の確保（AP）を、チャレンジDではそれらを底支えする基盤整備を掲げて推進していく。また、チャレンジEとして、社会の多様化と変化を迅速に捉え、社会のニーズを先取りした新たな学びの提供を積極的に推進するとともに、グローバル市場においても新たな価値の創出を積極的に展開していく。

第一次長期計画推進事項

- | | |
|----------|--|
| ① チャレンジA | ウェルビーイング社会の創造に貢献する Creative な実践者の輩出
スチューデント・サクセスを実現した多様な人材の輩出 |
| ② チャレンジB | スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進
学修ジャーニーと響学スパイラルに基づく効果的な教育の設計及び学修支援 |
| ③ チャレンジC | MUのブランドに共鳴する学生の安定的な確保
APを満たす学生の安定的な確保とスチューデント・サクセスを基軸とした効果的な |

入試広報展開

- ④ チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creative な実践者を育む体制の整備
多様な学生・教職員が響創的に学び、働くことができる環境の整備
- ⑤ チャレンジE 新たな教育市場と価値創出
時代、社会のニーズを先取りした教育研究の展開

2. 武蔵野大学中学校・高等学校

仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据えて、大学附属校としての役割と、国内外の難関大学に挑戦する役割の2つの側面を両立させていく。また、理系教育により一層の強化を行い、創設者の想いを今後も継承していきながら、地元からも愛される発信力を備えたリーディングスクールを目指していく。また学習指導要領の改定、GIGAスクール構想、共学進学校に対応した教育カリキュラムの開発や施設設備の改修を今後10年間で実施する。さらに教員組織や財政については、系列校との人材交流により、組織の活性化を図りつつ、生徒募集や学費改定などのノウハウを共有し、相互の財政基盤の健全化・安定化を図る。

第一次長期計画推進事項

- ①附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実をはかり、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく
- ②目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人材の開発・育成を進め、募集定員の充足、研究成果をはじめとする生徒の活動実績、大学合格実績の創出と、その実践の頒布
- ③仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据える
- ④組織の活性化と職場環境改善の推進

3. 千代田中学校・高等学校

国内外難関大学、国公立大学への合格実績を上げていくために、教員の指導力向上と外部教育機関との連携を図る。教育活動では、「学際性」と「探究」に重点を置き、これからの世界を見据えた「想像力」と「教養力」に富んだ生徒の育成に取り組んでいく。また、中学校と高等学校の校名変更並びに中高一貫型教育への移行と、それに伴うコースとカリキュラムの再編にあたり、社会と接続する学校教育モデルを構築し、未来の世界に貢献する教育機関として、建学の精神の具現化を一層強化する。さらには、武蔵野中高や龍谷総合学園関係校との人事交流を図ることで、教育手法の研究や補助金・寄付金等の外部資金獲得、生徒募集等の知識と経験を共に活かし、法人全体としての最適化を目指していく。

第一次長期計画推進事項

- ①前身である千代田女学園設立者の島地黙雷先生が目指された「国際教養人の育成」を基に、国を越えた人類レベルで世界の幸せを追求するための体制構築及びそれをカタチにするために必要な環境としての難関大学への進学を可能にする指導の充実
- ②目的達成のために必要な教育コンテンツとスキームの開発並びに募集定員の充足、研

究成果をはじめとする生徒の活動実績、大学合格実績の創出と、その実践の頒布 ③仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据える ④法人全体ベースでの組織マネジメントの構築
--

4. 武蔵野大学附属幼稚園

円滑な運営と教育環境の整備を行い、競争力ある教育を実施することで園児を成長させる。また、西東京市が策定している子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）の施策である「認定こども園化に向けた支援」が実施された場合は、幼稚園型認定こども園への移行を検討する。自然豊かな教育環境、仏教保育の充実、そして大学附属園の利点を十分に活かす教育など、これまでの本園の特徴を基盤としつつ、さらに現代的なニーズ、関心に照らして一層の充実をはかっていく。また、未就園児クラス及び預かり保育の充実等、さらなる競争力強化に努める。

第一次長期計画推進事項
①園児が健やかに成長できる教育環境を整備する ②幼稚園の円滑な運営 ③入園者の確保

5. 武蔵野大学附属有明こども園

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律とその関連法令に従って、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、就学前の子どもに対する教育及び保育を一体的に行う。そのために教育環境の整備と職員の質向上を図り、円滑な運営に努める。大学と連携したわくわくプログラム等の特色ある教育に注力すると共に、未就園児を対象とした様々な子育て支援プログラムや図書室「えほんのもり」を活用した地域貢献に取り組む。湾岸地域、さらにその周辺地域での評価を確固たるものとし、安定的な園児獲得への基盤を築く。

第一次長期計画推進事項
①大学の様々な学部と連携し園独自のカリキュラムを構築することによる園児がわくわくし、学びの楽しさを感じられる教育・保育の実践 ②子育て支援を中心に様々な地域貢献を実施する地域に根付いた園の実現 ③次世代を担う人材育成への貢献 ④安定した円滑な運営を行うための園児募集

6. 法人

大学をコアとした持続可能性を確実にする法人運営を実現するために、「改革とチャレンジにより成長する大学になる」という本法人経営の基本的な考え方に基づき、健全なガバナンス体制の構築と維持、本法人が定める財政基本理念に基づく安定的な財政基盤の確立、計画的な施設整備、DXの推進、建学の精神を理解した有為な役員及び教職員の確保・

育成、戦略的な広報展開及び透明性のある情報公開等を通じ、教育研究活動等を魅力的に展開し、社会貢献を図りながら、持続可能な法人経営を確実にする。

第一次長期計画推進事項
①建学の精神の堅持及び未来への継承 ②法人経営と教学の健全なガバナンス体制の構築・維持と執行体制の強化 ③組織の活性化 ④戦略的な広報展開 ⑤創立 100 周年記念事業の成功を次の 10 年 50 年への長期的な展望の起点とする ⑥卒業生の組織化とロイヤリティ向上 ⑦財政基本理念に基づく安定的な財政基盤の確立 ⑧危機管理体制の確保 ⑨教育研究基盤を強化する計画的な施設整備 ⑩DX 推進による各設置校及び法人の現在価値の向上や新たな価値創出